

クリの害虫-1 (病虫害講座-46) 虫こぶは焼き栗の敵

木村 裕

栗と言えば、焼き栗、ゆで栗、マーロングラッセ、栗の甘露煮など、おいしい物いろいろありますね。

焼き栗は簡単に皮が剥けておいしいですが、すべて中国からの輸入品です。日本で栽培している栗は、粒は大きいですが皮と実がしっかりとくっついていて剥がれにくく、焼き栗に適していません。これは品種の違いからきたものです。日本でも栽培すればよいのと思いますが。

【クリタマバチ】

春4月ころ、山に自生している柴栗の新芽が赤く球状に膨れているのに気がつきませんでしたか？これは新芽の中に数匹のハチの幼虫が住みついているからです。新芽が異常にふくれるため、新しい枝は正常に伸びず、花も咲かずに枯れてしまうことが多いです。

焼き栗となる天津栗は、この虫の被害をもろに受けて枯れてしまうため、日本では残念ながら栽培できません。日本でも昔はこの天津栗に近い品種が栽培の中心でしたが、このハチのまん延のため全滅し、今ではこの虫に抵抗力の強い品種に変わっています。



7月頃に成虫のハチとなって飛び出し、来年用芽の中に産卵し、やがてふ化した幼虫は芽の中で徐々に成長するのですが被害は外観上まっ

たく分かりません。そのまま芽の中で越冬し、翌春、虫こぶをつくって一気に大きく成長します。

【クスサン】

青白色の長い毛が密生した大きな毛虫が葉を暴食します。小さなころは真っ黒な毛虫でかたまっていますが、毛が白くなるころにバラバラに分かれます。昔はクリの毛虫の代表でしたが、最近はなぜか少なくなり、あまりお目にかかりません。

【胴枯れ病】

樹が大きくなり、これから実がたくさん穫れると皮算用をはじいた頃に発生する病気で、中心となる太い枝が枯れ、やがて樹全体が枯れ始めます。恐ろしい病気で、有効な対策はありません。

【クリノオオアブラムシ】

黒色の大きなアブラムシが新芽、枝、幹に群生して汁を吸います。



卵で越冬するため、冬に樹幹表面に黒色の卵が数百個かたまって着いているのがときどき見られます。またこの虫はクヌギ、生垣のアラカシやウバメガシでもしばしば発生します。



幹に産まれた卵の集団